

やあ!

TIA news



財団法人栃木県国際交流協会
Tochigi International Association
URL <http://tia21.or.jp>
E-mail tia@tia21.or.jp

2005 summer **8** No. **92**

やあ!特集

外国人のための「ニホンゴ」教室

とちぎで暮らして…
世界をペロリ
心に残る私の写真
国際理解への扉

渡邊 玲さん(台湾)
ボリビア料理「ピケ マチョ」
フィリピン 田村岳充さん
「青年海外協力隊
元気いっぱい行ってきます!」



フィリピンのデザートと言えば、ハロハロ!タガログ語で混ぜ混ぜという意味。その名のとおりに、かき氷、アイスクリーム、ナタ・デ・ココにたくさんのフルーツをよく混ぜていただく、とっても美味しい。(撮影協力:ハロハロ inn 那須 <http://www.h5.dion.ne.jp/~halohalo>)



渡邊 玲さん (37歳)

Watanabe Rin

プロフィール

台湾出身。日本在住9年。外国人のための日本語教室*「一步一步日本語」の代表を務める。「雑用係です。」と笑う謙虚な玲さん。宇都宮市在住。

一日本に住むきっかけからお聞きしたいのですが。

玲 実は、私の叔母が名古屋に住んでいるので、時々日本に遊びに来ていました。ある時、日光に行ってみたくて言うと、叔母は栃木県に住む数人の知り合いに案内を頼んでくれました。その案内役の一人が今の夫だったんです。一運命的な出会いですね。その後日本での生活が始ったわけですね。

玲 日本語が全くできなかった私は、家に閉じこもっていました。当時、家には夫の娘が二人おり、娘たちと仲良くしたくても、言葉がわからなかったのでできませんでした。私は、妻として今できることだけでも精一杯やろうと、本を見ながらごはんを作ったり、洗濯、掃除と主婦としてやるべきことを毎日こなしていきました。でも家事が終わるとほかにすることがありません。外に出る勇気もなく、テレビを見ても分らず、ストレスはたまっていきました。

一そんなとき、ご主人はどうしてくれましたか？

玲 いつも私の味方になってくれたんです。日本の習慣や文化がわからない頃、私の話し方がきつかったり、誤解を招くこともあったんです。そんな時、夫は、「みんなは周

りに友達や親戚がいて、文句や愚痴を言う相手がいるけれど、玲には誰もいない。私が味方にならなければ、誰がなってあげるんだ。」といつもかばってくれ、周囲の批判に耳を貸しませんでした。夫の優しさがなければ、私は耐えることができなかったかもしれません。

二人の娘たちは、今では結婚し家から出ています。娘たちとはいろいろありましたが、今ではとてもいい関係です。娘たちは、家事や子育てがどんなに大変か分った今、今まで家の中でやってくれたことや父親と結婚してくれたことに対して、とても感謝していると私に言ってくれました。

振り返ってみると、つまらなく思える家事でも日々の積み重ねで、今の幸せがあるんだなあと思います。

一「一步一步日本語」について教えてください。

玲 日本語を勉強することが第一の目的ではありますが、日本の習慣についても、先生方に教えてもらいます。何より同じ立場の仲間に会えて、ほっとできるんですよね。メンバーの8割は日本人の妻です。日本語をきちんと身に付ける前に、子どもが産まれて忙しくなり、勉強の機会を逃してしまうことに、何らかの支援が必要ではないかと思います。日本に来て不安な外国人がいたら是非参加してください。また、日本の方も外国人を見かけたら、何か声をかけてください。ほんの一言でもとても嬉しいんです。



▲一步一步日本語で勉強する玲さん

ペロリ 世界を

このコーナーでは世界のおいしい食べ物をレシピ付で紹介します。

ボリビア料理「ピケ マチョ」

材料(2~3人分):

牛肉	200g	酢	大さじ3
ソーセージ	40g	塩、こしょう、とうがらし	
パプリカ	2コ	にんにくパウダー	適量
たまねぎ	1コ	ビール	130ml
じゃがいも	1コ		
ゆで卵	1コ		
トマト	1コ		



今回、料理を作ってくれたのは、ボリビア人のエヴェリン ビジャヌエヴァさん。今回はボリビア産のロコトというとうがらしを使ったが、赤とうがらしで代用してもOK。



ピリリと辛くてボリューム満点!!



①じゃがいもをたんざく切りにし、水に浸しておく。その後、油であげる。



②タマネギ、パプリカ、ビーマンを5mm幅でせん切りにし、塩、こしょう、にんにくパウダーを入れ炒める。



③肉を焼く少し前に酢をかけておく。肉、ソーセージの順で焼き、塩、こしょう、にんにくパウダー、とうがらしを入れて炒め、ビールを入れてアルコールを飛ばす。



④③に②を入れ、揚げたじゃがいもを加えて、少し炒めお皿に盛る。トマトやゆで卵を飾ってでき上がり!



渡部 スピンさん (30歳)

Watabe Sphin

今年4月に南国タイから栃木県に住むことになったスピンさんです！

ー スピンさん、こんにちは！初めてお会いしたとき、日本の方かと思いました。

スピン 中国系なんですけど、中国語は話せません。でも母は中国語の先生なんですよ。

ー 今年の4月に日本に来たとは思えないほど、日本語がお上手ですね。

スピン 実は、以前日本に留学していたことがあるんです。タイで英字新聞の編集の仕事をしていた頃、大阪外国語大学で奨学金をもらいながら研修ができることになり、半年間日本語の勉強をしました。その後、和歌山大学の大学院で経済学を2年間勉強しましたが、全て英語で行われたので、日本語にはあまり自信がありません。



▲気さくにお話するスピンさん

ー タイではどのようなお仕事をしていたのですか。

スピン 自動車メーカーが開発したロボットを宣伝する仕事をしていました。国外でモーターショーなどがあると、そのロボットをどのように動かせばおもしろく見えるかなどを考えて、プレゼンテーションする仕事です。仕事で行った国は10か国以上になると思います。

ー 国際的にご活躍だったんですね。

スピン オーストラリアで行われたモーターショーで私がロボットの操作を、現在の夫が修理をする担当で、その時に初めて会いました。



▲とっても素敵！タイでの結婚式

ー 素敵な出会いですね。栃木県はいかがですか。

スピン 緑が多くていいですね。しかも、マナーを大切にすし、約束も必ず守ってくれますしね。

ー これからの予定はありますか。

スピン 新婚旅行にまだ行ってないので、行きたいですね。今までずっと仕事をしてきたので、仕事をしない毎日が何となく居心地が悪いです。もっと日本語を勉強して日本とタイの交流に関わることをしたいですね。

平成17年度「とちぎ留学生奨学金」合格者決定！！

「とちぎ留学生奨学金」とは…

（財）栃木県国際交流協会が栃木県の補助で行う「とちぎ留学生奨学金」と企業等からの寄付で行う「とちぎ留学生民間奨学金」の2種があります。ともに学業・人物ともに優秀で、将来本県と経済や文化面での交流など、栃木県と母県との懸け橋になってもらおうというものです。



とちぎ留学生奨学金に見事合格された、栃木県内の大学に学ぶ23名の留学生へのガイダンスおよび奨学金交付式が、7月7日（木）に栃木県総合文化センターで行われた。

まず、栃木県や栃木県国際交流協会（TIA）の取り組みなどを知ってもらうためのガイダンスが行われ、栃木県国際交流課の池亀課長によるクイズ形式の栃木県の説明のあと、TIAの地域活動やとちぎ国際交流センターの紹介をおこなった。

続いて奨学金交付式には、栃木県国際交流協会の会長である福田富一知事より、一人ひとり奨学金の交付決定通知書が手渡され、県の奨学生として積極的

に地域との交流に励んでほしいとのあいさつがあった。

来賓である文星芸術大学の林 香君教授からは、相手を知ることとはとても難しいが、県からの支援を活用し、母国と日本人の心をつなぐ役目を果たしてほしいとの言葉をいただいた。

知事との懇談会で、白鷗大学2年のタパ スラブさん（ネパール）は「家と大学の往復だけでは、もったいない。積極的に外に出て地域の人たちと交流していきたい。」また、足利工業大学2年李 雪峰さん（中国）は、「日本に来る前と来た後ではイメージが全く違っていった。日本人の優しさを中国やアジアに広めたい」などと語ってくれた。



外国人のための 「ニホンゴ」教室

「日本語の勉強」といっても、その目的はさまざま。来たばかりで全く通じない人、日本人なみのスピードでペラペラ話せても読み書きのできない人



▲ウクライナ人女性に教える岩井さんや、日本に来て10年以上たつて聞くのは分かるが話すことができないままの人、日本の大学に入りたい人、親と一緒に来日し突然日本の学校に通うことになった子どもなどなど…とにかく多種多様だ。したがって、なぜ日本語を学びたいのか、その目標やニーズも違うというわけだ。

そんな外国人のために、地域で楽しく日本語を学んでもらおうという、ボランティアによる教室が県内には約30ある。その中の2か所を紹介しよう。

宇都宮市国際交流協会「日本語教室」

日時：毎週土曜日 18:00~20:00

場所：宇都宮市北生涯学習センター

(宇都宮市若草3-12-25)

土曜の夜、しんと静まり返った公民館。中に入ると一番奥の部屋だけ明かりがついており、廊下を進むとだんだん賑やかな声が聞こえてきた。

教室の雰囲気はどう伝えたらよいだろう…いわゆる学校の教室という形態ではなく、小さなグループになってそれぞれが先生と向き合っている。上の写真のグループは日本人が使う自然な表現の練習をしていた。岩井さんは

「1年半前からここに来て教えています。テキストにも沿いつつ、実用的な表現も知っておいたほうが良いと思って…」と手作りの文字カードを見せながら授業を進めた。日本語教師というよりは、地域の外国人が楽しく過ごせるお手伝いがしたいと語ってくれた。ウクライナ出身のクリスティーナさんとウィオレタさんは、来日して1年半。「日本語を勉強して仕事がしたい。この教室は、本で勉強しただけでは分からないことを教えてくれる。」とウィオレタさん。

右の写真は、この教室の立ち上げから教えている鈴木律子さんのグループ。



中央の小さな女の ▲やよいちゃんの両側は日系ブラジル人の人々のやよいちゃんは今年の2月に台湾から来たばかりの11才だ。こちらの質問にきちんと答えてくれた。

やよいちゃんは家の中では、日本語と中国語を両方使って話している。日本語は読むのは簡単だが、書くのが苦手。将来は歯医者さんになりたいとか。

前述の鈴木さんはこの教室で教えて6年になる。日本語ができないと、日本人と付き合いたくても難しいし、仕事もできない。日本語を勉強したいと言う人がひとりでもいる限り、教室を続けていきたいという。

教室の一番隅に座っている台湾出身の鄭明香さんは、日本語ボランティアで、初めてきた人の対応をしたり、日本語の全く分らない人が来たら教える役割だ。「ことばの壁にぶつかっても前に進みたいと思う外国人の後押しがしたい。私が昔受けた好意の恩返しをしたいと思っているの。」休憩時間にみんなが使った湯のみ茶碗を、ゴシゴシ洗いながらそう話してくれた。

グローバルカフェ

日時：毎月第1土曜日 10:00~12:00

場所：グローバルハウス

(鹿沼市緑町2-12-18)

鹿沼市を中心に国際理解教育や外国人に対する支援等を中心に活動するグローバルグループという団体が開いている「グローバルカフェ」にお邪魔した。地図を見ながらグルグル回って辿りついたのが、三角屋根のかわいらしい白い建



▲英会話を楽しむ日本人小学生

物。約束の時間より早く着いたのだが、ペルー人親子と中国人がもう来ていた。その後から日本人の小学生らも続々と集って来た。一か月前に来日したばかりと



▲2才のコウキ君はお母さんと数字ゲームというペルー人兄弟も加わり、日本語、英語、スペイン語、中国語が飛び交う本当にグローバルな空間！何だかここにいるだけで楽しいなあと考えていたら、グループ代表の山本和子さんが外国人の子どもたちを相手にひらがなカードをめくり始めた。「す!」「お!」「あ!」と子どもたちが大きな声でひらがなをどんどん読んでいく。それよりもっと小

ohayou

arigatou

konnnitiwa

suimasen

konbanwa

douitasimasite

さい子どもたちは、パズルをしたり、数字合わせのゲームをしたりして遊びながら学んでいる。次から次へと興味に移る子どもたちは、今度はパソコンの前に座って、グローバルグループのメンバーである酒井正雄さんが作った、ひとりでも日本語が勉強できるページに挑戦だ。

酒井さんは退職後、時間を有効利用しようと目の不自由な方の付添いボランティアやシルバーク大学で勉強されるなか、前述の山本さんとの出会いがあった。子ども向け



▲中国出身の男性にパソコンを教える酒井さん

の「楽しい勉強部屋」というサイトも立ち上げ、グローバルカフェでは主にパソコン指導として活躍されている。「朝起きたときにやることがない人は、生きがいがないと

いうこと。私はグローバルグループで生きがいを見つけました。」と熱心に語ってくれた。

教室が始って1時間経つと、おやつ時間だ。お菓子を食べてジュースを飲んで、教室内はいちだんと賑やかに。

短い休み時間の後、また各々やりたいことを始める。写真の編集の仕方を習っている中国出身の和久井さんは、ずっと画面に向っている。ペルー人のシルビアさんはメールやチャットのやり方を習っている。それぞれが必要なことを自由に学び、日本人ボランティアのみなさんが着かず離れず見守っている。工夫と知恵がいっぱい詰まった居心地の良い日本語教室だ。



▲ひらがなカードを読む子どもたち

*「楽しい勉強部屋」 <http://xcj.sakura.ne.jp>

臼井佳子さんに聞く

～日本語ボランティアの現状と課題～

プロフィール：

宇都宮市国際交流協会副会長、日本語教師、フリーアナウンサー、栃木県教育委員会委員長等々多方面で活躍中

日本語を教える勉強を始めたのは、今から20年近く前になります。当時、日本語教師の登竜門である日本語教育能力検定試験も開始され、「日本語を教える」というのがこれから注目されるブームの予感のような雰囲気がありました。私はアナウンサーという職業柄、ことばについて関心があり、仕事に役立てようと思ったことがこの世界に入ったきっかけです。

当時一緒に勉強していた仲間は、国内外を問わず、日本語教育の第一線で活躍しています。私はその中で、アナウンサーの仕事を続けながら、地域の外国人に日本語を教えたり、また日本人のボランティアの方々が、どのように教えるかといったいわゆる日本語教授法も教えています。

宇都宮市国際交流協会では現在2つの日本語教室を実施していますが、私は木曜日の夜の教室の方に行っています。この教室では、現在13カ国59名の外国人が通って来ており、6つのグループにレベル別で分れています。1グループが10人前後の学習者に3名の日本人のボランティアがついて勉強します。つまり約30名の日本語ボランティアが毎週毎週日本語を教えるために集って来ているわけです。

正直なところ、ボランティアの方々が負担に感じている部分もあるとは思いますが、教える仲間もいて、楽しくてやりがいがあります。

ボランティア活動は、今では社会の動きの中の一部となっていて、「大変だからもうやめた」とかは簡単に言うてはいけない、自分に責任をもってやることだと思います。

日本語教室が小さい規模でも、もっと各地域に広がり、外国人が気軽に日本語の勉強や交流ができればいいと思います。一方で、外国人のニーズに応えるためのプログラム作りや、ボランティアの育成、行政との調整などをするコーディネーターが必要になってきています。

私たちボランティアは、2か月に1度ミーティングを行って自分たちの活動を振り返る時間を設けています。日本語を教えるということは、まず外国人のニーズが出発点だということを忘れてはいけません。長年続けることは確かに誇りではありますが、そこにあぐらかいてはいけません。自分自身も勉強をしながら、活動が続けるということが嫌でない人が必要です。もうあとは、体力と気力ですよね。





▲現在は中学校で英語を教えている

写真を提供してくれたのは、河内町出身の田村岳充さん。フィリピン・マニラ日本人学校（MJS）に派遣されたときの思い出の写真を見せてくれました。

インターナショナルスクール集合 !!

2001年からMJSに英語の教員として勤務しており、派遣当時世界で5番目に大きい日本人学校でした。当時小中学生が約500名在籍しており、近隣にインターナショナルスクールなどもあることから、同世代の外国の友人と触れ合う恵まれた環境にありました。

そんな中、英語は覚えるものというより、コミュニケーション手段の一つとして、英語を話しながら多文化に触れる機会をたくさん作りました。



マニラで学んだこと

準英語圏であるフィリピンで生活する日本人児童・生徒は、英語がけっこうできるはず…しかし他国出身者との交流授業では、自分の考えを伝えることが苦手なようです。こういった交流を通して、これから世界に飛び出していく子どもたちに、相手の考えを受け止め、また自分の考えもしっかり伝えられる力を育てていきたい！そう思いました。

このコーナーで紹介する写真とエピソードを募集しています。詳しくは、協会までお問合せください。（☎028-621-0777）

情報発信

（国際協力機構JICA事業）



<http://www.jica.go.jp/>
（過去の入賞作品をご覧になれます）

国際協力フォトコンテスト作品募集

「写真を通して、開発途上国や国際協力への関心と理解を深めていただくこと、またその国際協力フォトコンテスト作品募集広報素材の活用することを目的としています」

■募集テーマ

- ①国際協力…日本人と開発途上国の人々との技術協力や交流の現場を撮影した写真。
- ②一般…開発途上国の自然や文化の中で生きる人々を撮影した写真

- 賞 JICA理事長賞 表彰状、賞金10万円他
国際協力賞 表彰状、賞金2万円他
一般賞 表彰状、賞金2万円他

■募集締め切り

平成17年9月15日（木）＊当日必着

■応募・問合せ先

〒160-0023
東京都新宿区西新宿6-10-1
日土地西新宿ビル20階
（財）日本国際協力センター
開発業務部内
tel. 03-5322-2552
fax. 03-5322-2590
E-MAIL photo21@jice.org

JICA国際協力中学生・高校生 エッセイコンテスト 2005

募集テーマ…開発途上国や国際協力、国際理解について考えていること。

例えば「平和」「私たちの未来と地球」「青年海外協力隊になったら」

「開発途上国の人々とのふれあい」「ボランティア活動を経験して」など、題は自由です。

- 賞 中学生・高校生 各 最優秀賞3名、優秀賞4名、審査員特別賞4名ほか
賞状、副賞（約1週間の海外研修旅行 H18.7下旬実施予定）

- 応募規定 ○中学生の部（400字詰原稿用紙3枚以内）○高校生の部（同4枚以内）

- 応募・問合せ先 〒150-0012東京都渋谷区広尾4-2-24 （社）青年海外協力協会
tel. 03-3406-9151 fax. 03-3406-9160

- 募集締め切り 平成17年9月22日（木）＊当日消印有効



<http://www.jica.go.jp/classroom/index.html>

新規留学生のためのガイダンス

栃木県の大学などに入学した留学一年生を対象にTIAの事業紹介、生活上のアドバイス、交流ティーパーティなどが5月21日(土)に栃ぎ国際交流センターで行われた。ガイダンスでは先輩留学生から積極的に交流活動するようアドバイスがあり、交流会では日本舞踊やお国自慢などで盛りあがった。



Club lycée 仏ヴォークリューズ県とフランス語の魅力に迫る



高校生のための国際理解クラブが5月28日(土)に栃ぎ国際交流センターで行われた。相互派遣された高校生の白崎唯子さんの体験談を聞いたり、フランスのミント水を飲んだり、エリック国際交流員も登場しフランスを満喫した。
《会員随時募集中!》

国際交流団体連絡会議

栃木県国際交流協会と県内の国際交流団体等との連絡会議が6月3日(金)に栃ぎ国際交流センターで行われた。協会の事業案内、各種情報提供などの後に、国際協力機構(JICA)による草の根事業開発についての説明およびアジア学院の事例発表があり、海外支援について考えた。



わいわい地球っ子クラブ ~Xin Chào ベトナム~

6月11日(土)に栃ぎ国際交流センターでベトナムをテーマに開催された。参加したのは、地球っ子クラブの小学校3年生~6年生の43名。タイトルの「Xin Chào(シン チャオ)」はベトナム語でこんにちはという意味。宇都宮大学工学部の留学生ホー・ワン・ナムさんがクイズなどを出しながら楽しくベトナムの国について紹介し、ベトナムの遊びを体験したり、みんなで生春巻きを作って食べた。



国際理解教育ファシリテーター養成講座

国際理解を深めるための授業やプログラムを進めるファシリテーター(進行役・プログラムの促進者)を育成する講座が足利と宇都宮の二会場で行われた。講師はグローバル教育などで活躍の桜井高志氏。6月18日(土)の足利会場を皮切りに、地域の国際理解教育プログラムを作成するなど、活発な講座内容となった。全5回のこの講座は4回まで終了しており、11月に再び同じメンバーで集り、実践事例の発表や今後の展開を考える予定となっている。



国際理解への扉

夢の〜世界遊園地

元気いっぱい行ってきます!!

~栃木県出身・青年海外協力隊17年度1次隊~



栃木県出身の青年海外協力隊平成17年度第一次隊5名が3か月間の訓練を無事終え、7月に各任国に向けて出発しました。()内は派遣国、職種、出身市町村)

- ★小暮克夫さん(カンボジア 統計 足利市)写真:右上
第一印象から決めていました!愛するカンボジアで2年間精一杯頑張ります!
- ★野部美千子さん(カンボジア、小学校教諭、佐野市、現職参加)写真:下中央

- カンボジアのサクラ小学校で音楽、図工、体育を教えます。天明小の子どもたちとの交流もできたら、と考えています。
- ★峯岸亨さん(チリ、体育、今市市)写真:左上
今隊次最南端の地で頑張ります。チリワインが楽しみ。
- ★宮崎靖久さん(マラウイ、理数科教師、小山市)写真:右下
みなさん!マラウイという国をご存知ですか?とっても良い国ですよ!覚えてくださいね。
- ★知久志穂子さん(メキシコ、陶磁器、小山市)写真:左下
お土産品の開発の手伝いに行きます。メキシコの歴史、食べ物、踊りを楽しんでいます!行きます!
- *****
栃木県出身の隊員は累計400名に、現在も30名の隊員が世界各国で活躍しています。これまでたくさんボランティアたちが世界各国の人々と泣いて、笑って、汗を流してきました。誰かのために、自分のために過す2年間。新隊員の皆さん、目がキラキラしてますね!ステキな2年間を過ぎてきてください。行ってらっしゃい!

JICA 栃木県国際協力推進員 松島愛実

公益法人支援システム 公楽

- 総合的に会計業務を支援し、事務作業の大幅な省力化を約束します!
- 複雑な公益法人会計も、このシステムがあれば解決!

FUJITSU

パートナー

株式会社 ケイエムシー

〒321-0942
宇都宮市峰1丁目15番6号
TEL 028-632-5111(代)
FAX 028-633-7269
URL: http://www.k-m-c.co.jp

とちぎTV

とちテレデジタルのうた

楽しくいきまよ

作・つれすけくん



ひろが〜る ひろげ〜る デジタ〜ル



とちぎテレビのデジタルリモコン番号は3チャンネルです。

2005年12月1日

とちテレ地上デジタル放送スタート

TIAの国際理解クラブ

会員大募集!!

高校生のための

● Club lycée

参加者からのアイデア大歓迎!
国際的視野を身につけよう!!

活動内容 参加型セミナー、外国人との交流など

活動日 奇数月の第4土曜日

年会費 無料

小学3～6年生のための

● わいわい地球っ子クラブ

同じ地球で生活する仲間として、
一緒に世界を学ぼう!!

活動内容 ゲーム、料理、工作、
外国人との交流など

活動日 9/10(土)、12/3(土)、3/4(土)

年会費 1,000円

お問合せ (財)栃木県国際交流協会

☎028-621-0777

中学生の作文コンテスト作品募集

作文を通して、国際協力や国際社会のあり方について理解を深める目的で、作文コンテスト栃木県大会を実施します。

● 作文テーマ

「私たちが拓く未来の国連」、「国際協力と日本」、「世界平和と国連」のうちの一つ。作文の内容は、学校、家庭、社会などにおける作者の研究や体験あるいは実践などを通し、国際連合について述べたもの。

● 原稿

400字詰め原稿用紙4枚以内。原稿には標題、住所、学校名、学年、年令、氏名及び都道府県名を明記すること。(制限字数の中に含めること。)

● 賞 優秀賞2篇、優良賞3篇、佳作5篇

優秀賞作品は全国大会へ推薦する。

(全国大会で特賞の4名は副賞としてニューヨーク国連本部の視察がある。)

● 発表 平成17年9月下旬

*受賞者は、10月8日(土)に「とちぎインターナショナルフェスティバル」会場で表彰する。

● 募集締め切り 平成17年9月9日(金) 必着

● 応募・問合せ先

〒320-0033 宇都宮市本町9-14

(財)栃木県国際交流協会内 日本国際連合協会栃木県本部

☎028-621-0777 ㊟028-621-0951

栃木県国際交流協会 事業案内 Tochigi International Association(TIA)

～とちぎ国際交流センターの交流ラウンジ・図書閲覧室は
どなたでも気軽にご利用できます～

■ 相談事業

在県外国人をはじめ県民の皆さまの国際交流・国際協力に関する相談に専門の相談員が
対応

■ 機関紙の発行・情報提供

TIAニュース「やあ!」や在県外国人向け外国語情報紙の発行
とちぎ国際交流センター内には情報交換のためのメッセージボードの設置

■ 各種イベント・講演会

国際交流促進や国際協力意識高揚を目的とした各種イベントや講演会の実施

■ TIA協力者バンク

ホストファミリーバンク、インストラクターバンク、トランスレーターバンクの運営

■ とちぎコミュニケーションネットワーク(TCN)

在県外国人のネットワーク。イベント等の情報提供、国際理解講座等への協力

*この他さまざまな事業を行っておりますので、お気軽にお問合せください。

*とちぎ国際交流センターの交流ラウンジ・図書閲覧室はどなたでも気軽にご利用できます。会議室等の施設利用についてはご相談ください。

新規賛助会員の方々

個人：黒川辰美 様、廣瀬由佳 様、
酒井和也 様、塩井友紀子 様、
TSHILOMBO NGOI Jr 様、
海老沼勝義 様

～ご入会ありがとうございます～

財団法人栃木県国際交流協会は、特定公益増進法人(寄付金の損金算入等の課税特別措置)の認定を受けています。当協会の事業にご賛同くださる各企業、団体等からのご出捐をお願いいたします。

TIA賛助会員募集中!

(財)栃木県国際交流協会(TIA)では、賛助会員を募集しています。皆さまからの賛助会費は、TIAの様々な事業に使わせていただきます。地域の国際化に役立てられています。

賛助会員へのサービス

- *TIA機関紙「やあ!」、各種刊行物、イベント情報等ご自宅へ送付
- *海外のビデオを日本方式(NTSC)に変換
- *会員証の提示により指定店での割引

詳しくは賛助会員担当までお問合せください。

TEL 028-621-0777



年会費 個人 3,000円
団体 10,000円
法人 30,000円

TIAご案内図



編集・発行 財団法人栃木県国際交流協会
住 所 〒320-0033 宇都宮市本町9-14 とちぎ国際交流センター内
T E L 028-621-0777 (代表) 028-627-3399 (相談専用)
F A X 028-621-0951
業 務 時 間 8:30～17:15
休 館 日 日曜・月曜・祝祭日及び12月29日から1月3日